



みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.63

上 田市に10月2日、開館する市交流・文化施設「サントミュージゼ」。
舞台技術監督の馬場道雄さん(66)とスタッフの皆さんに、大ホールを案内してもらったら…びっくりの連続。美術館には子どもアトリエもあって、みんなとまた、行ってみたいな!

オープン間近!

サントミュージゼをたんけん



「大きくてびっくり」

内山みな美記者 坂城町4年

すごく大きくてびっくりしました。大ホールは3階で、1650席あります。一番前は、客席よりひくくて、楽器をえんそうします。えんそうがない時は客席にします。

「いろんなきせつに行ってみよう」

音琴光里記者 松本市3年

外のしほは3200平方あり、おべんとうを食べるのに気持ちよさそうです。ドウタンツツジが11730本もあり、さいたらすごいだろうなと思いました。いろんなきせつに行ってみよう。

「音がかえってこない、プニプニのかべ」

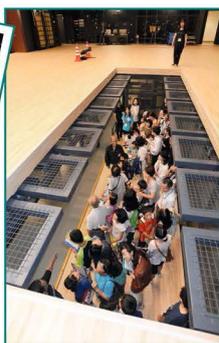
増田楓記者 上田市6年

想像以上に大きくてびっくりしました。大ホールの中のかべは、黒くてプニプニしている所があります。そこだけ、音がね返ってこなかったで、不思議な感じでした。

「裏方さんは足袋とせった」

滝沢悠真記者 長野市6年

舞台裏で仕事をしている人は、足袋とせったをはいていることに気がきました。理由は三つありました。①舞台の世界の伝統 ②すぐぬげて便利 ③歩く時に音がしないことでした。服装も上下黒でそろっていて、チームワークを感じました。



「しんせつな12人のスタッフさん」

渡辺真菜美記者 東御市1年

ステージのボタンは、おんがくにあわせてうえにいたり、したにいたり、うごきます。スタッフは、馬場さんをいれると12人だそうです。みなさんしんせつでした。

「バレエの公えん見に行きたい」

竹内絢美記者 上田市4年

オーケストラピットは、バレエやオペラをやる時、楽団の人が入って、えんそうする所です。今度バレエの公えんがあったら、絶対にみに行きたいです。

「貴重な体験」

保母彩葉記者 上田市5年

調光室には、ステージの色や明るさを変える機械があります。フェーダーというつまみを速く動かすと、色も速く変わり、色がまざるときれいでした。馬場さんは「このような場所をお見せするのは、みなさんだけかもしれません」と話していました。



「ひかりのいろをかえたよ」

内山陽日樹記者 坂城町1年

ひろいみどりのひろばのよこをとあって、おおきなほーるへはいりました。しょうめいのぼしよで、ひかりのいろをかえたのがたのしかったです。

「ボタンがいっぱい」

増田康誠記者 上田市3年

音きょうとしょう明のへやは、ボタンがものすごくいっぱいありました。やらせてもらうと、楽しかったけれど、音に合わせてしょう明の色をかえるのはむずかしそうだと思います。

「想像をこえた所」

辛広輝記者 岡谷市4年

大きくて美しい建物を見たとしゅん間から、わくわくしてきました。しぎ地は45ヘクタール、ひ用は約132億円。想像もつかないほど広く、たくさんのお金がかかったということが分かりました。

